

SDGs未来都市 ～世界に冠たる「NAGOYA」～ の実現

愛知県名古屋市（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

日本のほぼ中央に位置し、広域的な交流ネットワークの中心地となる本市は、現在約233万人の常住人口を有する。さらに、世界レベルの産業技術、大都市ならではの商業・サービスの厚い集積があり、強い経済力に裏付けられた安定的な雇用があるほか、日本有数の大学の集積地でもある。また、1999年に「ごみ非常事態宣言」を発表して以降、市民・事業者の協力によりごみ処理量約4割減を達成した。

こうした強みを生かし、アジア・アジアパラ競技大会やリニア中央新幹線開業をチャンスと捉え、世界から選ばれ尊敬される、世界に冠たる「NAGOYA」をめざしていく。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

名古屋市総合計画 2023（2019年10月公表）に掲げた2030年のあるべき姿をめざし、長期的な展望に立ったまちづくりを強力に推進することで、経済・社会・環境が調和した誰一人取り残さない持続可能なまちを実現していく。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

【経済】「イノベーション戦略」の推進

中小企業のイノベーション創出の促進やスタートアップの支援、MICEの推進など、新たな価値の創出に取り組んでいる。

【社会】「都市機能強化戦略」の推進

最先端モビリティ都市の実現に向けた取組やリニア中央新幹線開業に向けた名古屋駅周辺のまちづくりなど、大交流を支える都市機能の強化に取り組んでいる。

【環境】「環境都市推進戦略」の推進

低炭素なライフスタイル・ビジネススタイルへの転換の促進、緑に親しめる環境づくりや生物多様性の保全など、環境都市の推進に取り組んでいる。

5. 取組推進の工夫

SDGsの達成に向けた機運を高めるため、様々なイベントや広報物、市公式ウェブサイト等を通して域内外に向けた普及啓発・情報発信に取り組むとともに、SDGs推進プラットフォームの運営を通して市民団体や企業、学校・大学、国際機関等と連携を深めている。

また、行政内部においても、全庁的な組織を通じて、SDGsを意識した取組の推進や取組状況の情報共有などを行っている。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

名古屋市SDGs推進プラットフォーム専用ウェブサイトを活用した取組の発信や各種会議イベント等の機会を捉えた広報、情報発信を実施している。2023年度には、愛知県内の他の自治体（豊田市、一宮市）と連携し、それぞれの枠組みの会員が自治体の垣根を超えて交流する「合同交流会」を初めて開催した。

6. 取組成果

【名古屋市SDGs推進プラットフォーム】

2021年に創設した市内事業者等を対象とした登録制度で、会員633団体。
(2024.3末時点)

2023年度は、会員間の交流機会を提供するイベントやセミナーの開催、マッチング支援に加え、新たに分科会の活動を開始しSDGsを通じた会員間の連携促進に取り組んだ。

主な活動(2023年度)
交流会 3回
…参加者計105名
セミナー 2回
…参加者計79名
マッチング支援10件
…マッチング実績4件
分科会活動の推進
…設立1件

【なごや環境大学SDGs未来創造クラブ】

2020年度以降、まちづくりと人づくりのプロジェクトを実施。

まちづくりプロジェクトでは、「SDGsまちづくり推進事業」として2022年に公募した2地域において、環境を切り口としたSDGsの視点から地域課題を解決する「SDGsアクション」を本格実施し、地域・企業等のSDGs推進に向けた活動創出を促進した。

まちづくりプロジェクトを通じた人材育成数
▶10,008人

7. 今後の展開策

引き続き、名古屋市SDGs推進プラットフォームを通じて市内事業者をはじめとした多様なステークホルダーと連携し、市民や企業等によるSDGs達成に向けた行動や活動を創出するとともに、取り組みの更なる推進を図る仕組み作りを行う。

また、次期総合計画においても各施策事業とゴールの関連を整理し、事業の着実な推進によりSDGs達成に向け取り組んでいく。